

令和 2 年 5 月 19 日現在

機関番号：37114

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02531

研究課題名(和文)「マンデヴィル旅行記」と「タンダールの幻視物語」の異界観を中心とする複合的研究

研究課題名(英文) A Study on the Idea of the Other World Between Mandeville's Travels and The Vision of Tundale

研究代表者

壬生 正博 (MIBU, Masahiro)

福岡歯科大学・口腔歯学部・教授

研究者番号：30249784

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世西欧のパラダイスという異界に対する意識究明を目的とする。この観点から、14～15世紀頃の中英語翻訳作品「マンデヴィル旅行記」および「タンダールの幻視物語」、可視的な資料として13世紀後期のヘレフォード世界地図や写本画像を取り上げて複合的な研究を行った。特に上記二作品の比較でわかったことは、パラダイス描写と神の恩寵(grace)が密接に関連している点である。また、「マンデヴィル旅行記」とヘレフォード世界地図の比較によって、アジア全域が聖書の創世記に記されたエデンの園から流れ出る4つの川と深く関わっており、中世西欧とは全く異なる世界観を持っているとわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、上記の「マンデヴィル旅行記」の地上のパラダイスと「タンダールの幻視物語」の天のパラダイスの描写を国内外で初めて比較研究した点である。この研究によって、当時の人々がどのようなパラダイス観を持っていたのかその一端を究明できた。また、「マンデヴィル旅行記」とヘレフォード世界地図を比較することで、アジア全域が聖書に記されたエデンの園の川と密接な関わりをもち、西欧社会のアジア観の特殊性を明白にすることができた。今後は、研究成果を学会やその他で一般に公開することで社会的意義にしていきたい。

研究成果の概要(英文)： This study aims to explore the concept of Paradise during the medieval period in Western Europe. I researched 14th-century medieval English versions of Mandeville's Travels and 15th-century versions of The Vision of Tundale. Moreover, I also consulted visual materials, such as the late 13th-century Hereford world map and miniatures of medieval manuscripts for this study. My comparative analysis of the above two works revealed that the concepts of Paradise and the grace of God were closely related. In addition, a comparison of Mandeville's Travels with the Hereford world map showed that the four rivers flowing from the Garden of Eden in Genesis in the Bible ran through all the regions of Asia, which stands in stark contrast to commonly-held beliefs in medieval Western Europe.

研究分野：人文学

キーワード：中世イギリス文学 異界 夢文学 旅行記 アレゴリー 聖書 幻視

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1. 研究開始当初の背景

異界 (The Other World) 研究は、海外では多くの研究者たちが国際的な成果を上げている。例えば、H.R. Patch、Robert Easting、Alison Morgan、Eileen Gardiner、Carol Zalesky、その他がいる。一方、国内では異界研究はまだ開拓の余地が十分にあり、将来性を秘めた分野である。本研究で比較研究する 14 世紀の世界旅行記 *Mandeville's Travels* (「マンデヴィル旅行記」と 15 世紀の夢幻視物語 *The Vision of Tundale* (「タンダールの幻視物語」) は、中世社会の異界を描いた代表作であり、各々については詳細な研究がなされてきた。しかしながら、両者の異界描写を比較した研究は未発表である。本研究は両作品の中核となるパラダイス意識の解明に焦点をあてる。その理由は、*Mandeville's Travels* に記された地上のパラダイス (terrestrial paradise) は、具体的な地誌的道程を記すことによって極めて現実味を帯びた結果、大航海時代への原動力となり、そして、*The Vision of Tundale* が描く霊的な天のパラダイス (celestial paradise) は、死後の魂の救済への道標となっているからである。更に本研究は、13 世紀後期にイギリスで制作されたヘレフォード世界地図 (Hereford Mappa Mundi) や写本図像 (miniatures) 等の視覚資料も研究対象に加えることで、他の研究者がまだ考究していない独自の複合的な比較研究を行う。

次に、これまでの研究成果を踏まえて着想に至った経緯について述べる。平成 23 年度から 27 年度にかけて、中英語翻訳による夢幻視物語 (*St. Patrick's Purgatory*、*The Revelation of the Monk of Eynsham*、*The Vision of Tundale* 等) が記す、死後世界の天上パラダイスに対する意識解明を考究するため、古代の黙示録文書や Dante の *The Divine Comedy* (「神曲」) との比較研究を行った。この研究において、夢幻視物語の中で特に *The Vision of Tundale* の地獄、煉獄、天国の構造が、*The Divine Comedy* の構造と共通性が多いことがわかった。また、*The Divine Comedy* との比較研究により、*The Vision of Tundale* の来世観、宇宙観、生命観等の特徴をより深く考究できた。具体的には、ローマカトリック教会の最重要教義である三位一体が *The Vision of Tundale* の全編を流れていることがわかった。大宇宙の頂点には三位一体の神が存在し、神の愛と光が全宇宙を統括しているのである。神の愛と光は万物の生命の根源であり、全宇宙を動かす根底の力でもある。このように *The Vision of Tundale* は、人間の魂が赴く霊的世界の記述が凝縮された作品であることが明白となった。

上記の研究成果を踏まえて、*Mandeville's Travels* に描かれた自然界に存在するパラダイスと *The Vision of Tundale* が記す死後の霊的世界に存在するパラダイスの描写を比較研究することで、中世西欧社会の表裏一体となった異界に対する意識解明の手がかりとなるという着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究は、異界、特に中世西欧から見たオリエン特世界やキリスト教思想を基盤とする霊的世界について、その深層意識の解明を目的とする。鍵となるのは、前項 1. で述べたパラダイスである。この観点から、*Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* の比較研究を行う。繰り返しになるが、前者は地上のパラダイスを世界の頂点に据えてオリエン特への憧憬を促し、後者は死後の霊的世界を巧みに描写することによって人間の魂を天のパラダイスへと導いた点で、どちらも本研究の比較研究に値する作品である。この両作品を探究することによって、地上世界と精神世界の両側面から当時の世界観、宇宙観、生命観等の深層究明を目指す。加えて、本研究では可視的な資料として 13 世紀後期に作成されたヘレフォード世界地図や写本図像も研究対象に取り入れることにより、複合的な異界研究を行う。

### 3. 研究の方法

初年度である平成 29 年度の主たる計画は、研究システム（コンピュータ、プロジェクター等）の構築を行い、海外での調査研究として、ロンドンの大英図書館等に赴き、本研究に関する中世写本テキスト、画像等の視覚芸術等のデータを収集して情報を整理し、重要なテキストや画像をデジタル媒体で入手し、データを保管する。並びに、ヘレフォード大聖堂に赴いて、*Mappa Mundi* の保存現況を実地調査した。平成 30 年度と最終年度の令和 1 年度の研究期間中には、*Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* の文献相互間のパラダイス描写の要素や表現方法を主とする比較研究を中心に、写本画像のデジタルデータ収集・解析ならびに文献記述との比較、国内外の図書館や博物館等での資料収集、学会発表、論文作成等を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 平成 29 年度

平成 29 年 8 月にロンドンを拠点として、本研究課題のテーマである *Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* の中世写本および研究資料の調査・収集等を行った。概要は以下のとおりである。

・ British Library（ロンドン）では、Add. MS. 24189; Cotton Caligula AII; Royal MS. 17 B xliii 等の写本調査を行った。また、これらの写本に関する解説書や研究書も閲覧し、研究に益する箇所は、館内で許可された範囲内でデジタルカメラを用いて撮影収集した。

・ National Gallery（ロンドン）の Sainsbury Wing では、地上のパラダイス、天の都、三位一体等の構図をもつ中世の視覚芸術を中心に調査し、館内で許可された範囲内でデジタルカメラを利用して研究書や写本からデジタル資料等を入手できた。

・ Hereford Cathedral（ヘレフォード）では、13 世紀後半に作成された世界地図について調査を行った。この世界地図は、羊皮紙に描かれたもので、現在でかなり色彩が劣化しているが、ヘレフォード大寺院内の *Mappa Mundi* コーナーに大切に保管されていた。また、貴重な中世の世界地図に関する研究資料も入手できた。

・ 研究成果の中間発表として論文を作成し、学術雑誌に掲載された（「中世西欧社会におけるパラダイス思想についての一考察」西南学院大学 QUEST 第 23 号）。左記論述は、*Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* のパラダイスに対する意識について論じたもので、考察の結果として明らかとなったのは、地上であれ天上であれ、パラダイスに到達するには、両作品とも神の恩寵 (grace) が必要不可欠であるという点を述べていることである。これは、神学者 Thomas Aquinas にも共通している認識であり、この点から、神の恩寵は人間がパラダイスに到達するために極めて重要な宗教上の概念であることがわかった。

#### (2) 平成 30 年度

平成 30 年度は、*Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* の特にパラダイス描写に焦点をあてて、中世の世界地図 (*Mappa Mundi*) や Dante の *The Divine Comedy* も視野に入れて複合的な比較研究を行った。得られた知見を基にして口頭発表を行った（「中世イギリスのヘレフォード世界地図に見る特異な世界観について」、第 15 回総合文化学会）。この発表では、世界地図 Hereford *Mappa Mundi* を取り上げて、*Mandeville's Travels* の記述と比較しながら、地図におけるパラダイスの意識について考察を試みた。比較研究でわかった点は、聖書の創世記に記されたエデンの園から流れ出る 4 つの川がアジア地域と深く関わっており、ヨーロッパ世

界とは全く異なる世界観を持っていることである。当時のアジア全域は、科学的な知識を基礎としているのではなく、ヨーロッパ側から見た独自の世界観に基づいて形成されている。そこでは、ヨーロッパ古来の神話や伝説、あるいは、聖書の逸話などが世界地図作成のソースとなっている。特に注目すべきは、世界の中心は聖地エルサレムが位置し、地図の最上層——死後の霊的世界——では、天上におけるイエス・キリストの最後の審判の様子が描かれており、当時のヨーロッパが聖書の知識を基にして、どのように世界を理解していたかを改めて認識できた。また、学術論文として"Viewpoints on the Descriptions of Paradise in Dream-Visions"( *Journal of Comprehensive Cultural Studies*, No. 8)、更に「中世文学に見る地上のパラダイスの「泉」について」(*The Kyushu Review*, 第16号)が学術誌に掲載された。前者は、*The Vision of Tundale*、その他の幻視物語のパラダイスの諸要素を分類してその特徴について述べ、中世キリスト教社会では、地上および天のパラダイスの存在は極めて現実味を帯びた理想郷であった点を浮き彫りにした。後者は *The Vision of Tundale* とダンテの *The Divine Comedy* のそれぞれの作品に記された地上のパラダイスの「泉」について論じたものである。創世記のエデンの園に記された「生命の木」や「善悪を知る木」の主題は、*The Vision of Tundale* や *The Divine Comedy* においては、「木」から「水」の特性へと転じていると思われる点である。*The Vision of Tundale* では「生命の木」が「生命の泉」として、一方、*The Divine Comedy* においては、「善悪を知る木」はひとつの泉を水源とするふたつの川、即ち、悪行の記憶を忘却させる「レテ川」と善行の記憶を取り戻す「エウノエ川」というふたつの川として描かれていることを結論として指摘した。上記の研究を通じて、ここでもやはり中世の西欧社会の根幹に聖書思想がいかに深く根付いているかを再認識することができた。

### (3)令和1年度

本研究の最終年度である令和1年度は、平成29年度に行った *Mandeville's Travels* と *The Vision of Tundale* とのパラダイス描写の比較研究で明らかとなった恩寵 (grace) についてその特徴を調査した。この“grace”は、キリスト教において極めて重要な概念を含んでいる。特に中世において多大な影響を与えたのは、St. Augustine と Thomas Aquinas である。両者の特徴を簡略すると、Augustine の思想では、罪人が善を行う無力さは、神の恩寵によって内面から変革されなければならない、そうすることによって罪人は自らの力で救済への道を歩むことになる。Thomas の場合は、人間は生まれた時から神と交流するように運命づけられており、神との交流は恩寵なしに達成することはできないという。そして罪をまったく犯していない者でさえ、神の恩寵なしに神との交流を達成するのは不可能だという点である。また、令和1年度の成果のひとつは、Karma Lochrie 著 *Nowhere in the Middle Ages* (2016) の書評論文を日本中世英語英文学会に投稿し、当学会の学術誌に「掲載可」という審査結果をいただいたことである。この Lochrie の著書は、本研究が主たる対象としている *Mandeville's Travels* のみならず中世西欧における夢や幻視の解釈に多大な影響を与えた400年頃のローマの著述家 Macrobius の夢理論にも言及しており、本研究を推進する上でたいへん有益な情報を得ることができた。更に、夢幻視物語群の特徴・特質をより鮮明にするために、左記の Macrobius の夢理論と本研究にとって重要な黙示録 (Apocalypse) の夢や幻視の特徴について比較研究し、調査結果を論文にまとめ学術誌に掲載された ("A Study on Macrobius's Dream Theory and Features of Apocalypse," *Journal of Comprehensive Cultural Studies*, No. 12)。考察の結果として明らかになったのは、Macrobius の夢理論も Apocalypse も、夢や幻視が現実的世界とは異なる異界を描く媒体である点で共通しているが、最大の相違点は、Macrobius の夢理論には、ギ

リシアの哲学者 Plato からの流れを汲む「哲学」が、一方、Apocalypse の場合は、「宗教」が夢や幻視の解釈の根底にあると思われる点である。従って、Apocalypse は、夢や幻視を唯一絶対神と関連づけたために、独自のジャンルを形成したと思われる。左記の考察によって、夢幻視物語もやはり Apocalypse と同様の宗教観を基にして創作されたと考えられる点が明らかとなった。

最後に本研究を総括すると、まず、初年度にイギリスのヘレフォード大聖堂で世界地図の実物を現地調査できたことは、本研究にとって極めて大きな意義があった。ヘレフォードは小さな町ではあるが、今なお中世の面影を色濃く残しており、ヘレフォード大聖堂を訪れると中世にタイムスリップしたような経験をすることができた。そして、帰国後に *Mandeville's Travels*、*The Vision of Tundale*、その他の文献等に接する度に、これらが今まで以上に身近なものに感じられるようになり、本研究を円滑に遂行することができた。そして、本研究を通じて、パラダイスと神の恩寵が密接に関わっていることを究明できたことも、大きな成果であった。この神の恩寵という点を念頭に置きながら、人間の生命と深く関わる異界研究を今後も継続していきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 壬生正博	4. 巻 第8号
2. 論文標題 Viewpoints on the Descriptions of Paradise in Dream-Visions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Comprehensive Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 壬生正博	4. 巻 第16号
2. 論文標題 中世文学に見る地上の楽園の「泉」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Kyushu Review	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 壬生正博	4. 巻 第23号
2. 論文標題 中世西欧社会におけるパラダイス思想についての一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 QUEST	6. 最初と最後の頁 83-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 壬生正博	4. 巻 12号
2. 論文標題 A Study on Macrobius 's Dream Theory and Features of Apocalypse	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Comprehensive Cultural Studies	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 壬生正博
2. 発表標題 中世イギリスのヘレフォード世界地図に見る特異な世界観について
3. 学会等名 総合文化学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----